



Digest

名張育成会の「今！」がわかる

MIRAiとMIRAi reportそして輪ブログ

「MiRAi」とは、名張育成会と地域を結ぶコミュニティブログ。「MiRAiレポート」は、各施設からのスタッフ便り。「Café 輪」ブログでは、メニューや催し物をご案内しています。

YOUブログMIRAI 検索

MIRAIレポート 名張 検索

YOUブログRIN 検索

vol.39
2015.2.1発行

発行:名張育成会MIRAiプロジェクト
社会福祉法人 名張育成会 〒518-0615 三重県名張市美旗中村2326 TEL 0595-65-0271 FAX 0595-65-2936
発行責任者:市川知恵子(社会福祉法人名張育成会) 編集責任者:男武正基(社会福祉法人名張育成会)
編集長:佐伯典昭(株式会社サンエイ) 編集デザイン主任:新井知子(株式会社サンエイ) 題字:千秋育子

「いつだって今が一番」思いを重ねた39年

平成26年秋の叙勲「瑞宝双光章」 受章記念インタビュー 「成峯」 奥留里子所長

2014年11月3日、平成26年秋の叙勲が発表になり、名張育成会「成峯」の奥留里子(おくりこ)所長(62)が、「瑞宝双光章(ずいほうそうしょう)」を受章した。11/5、三重県庁での伝達式にて三重県知事から勲章勲記を手渡され、11/13には皇居にて天皇陛下に拝謁した。公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた功績を称え贈られるこの賞。これまでの歩みと今の気持ちを奥所長に聞いた。

奥所長が名張育成会(当時は名張育成園)に入職したのは昭和50年のこと。

鳥取生まれ鳥取育ちの奥所長が福祉の道を目指したのは高校三年生の時。まだ「福祉」という言葉も一般的でない時代だったが、担任の先生の「これからは福祉が発展していく」という言葉に素直に納得し、名古屋にある大学の福祉科に進んだ。「今思うと導かれたんだと思います。縁ですね」と当時を振り返る。

大学卒業と同時に名張育成会に入職、すぐに結婚。「母に『これからの時代は手に職を持って生きていけるように』とずっと言われていたので、結婚しても子供を産んでも一生働くものだと思っていました」という言葉通り、男の子二人を授かったがそれぞれ産後6週間ほど職場復帰している。「宿直のある日に限って子供が熱を出したりするんですよ(笑)。同居している夫の両親と夫の理解、協力がなくてとてもやってこれなかった。今回叙勲の知らせを受けて義父に「こんな私を理解して協力してくれてあ



もう長年の付き合いの利用者さんも多い。互いの信頼関係が笑顔に表れる。

りがとう」と感謝を言ったら、義父は「留里子がきばったからや(頑張ったからや)」と言ってくれました。ほんとに家族に恵まれたと思います」と感謝の気持ちを語った。

平成15年に福祉制度の大きな変更があった。その時まさに、責任者として現場を切り盛りしていた奥所長。新制度による契約書類等の準備が大変だったそう。「それでも新しい制度に対応しようと努力する職員熱意、そして新制度に移る数年前からアドバイザーを入れて、研修の機会を設けてくれた法人の姿勢のおかげで乗り切れたと思います。」さらりと言うが、実際は計り知れない苦労があったことだろう。

仕事をする上で心がけているこ

とは、「すぐに相談すること。特に悪いことは報告しにくいけど、むしろそういう報告こそ早くする。不安要素は溜めこまずすぐに外に出す、これが一番大事にしていることですね。」

叙勲の知らせを受けて「まずは困りました(笑)。晴れがましいことは苦手なんです。でも、もっと仕事を頑張れよと言われていた気がしました。」と茶目っ気たっぷりの笑顔を見せる。

後輩へのアドバイスをとお願いすると「ここで起こったことは逃げずにここで乗り越えて、ということです。私も失敗や挫折の繰り返しでしたが、スタッフや同僚、上司に助けてもらいながらなんとか続けることができました。時間が経てば全て

がいい思い出になる。結局今が一番だといつも思います。」

常に今この瞬間を大切にしてきたからこそ積み上げられた39年間。一言では語りつくせないこの歴史、経験が宝であり、だからこそ今回の叙勲が素晴らしい輝きを放っているのだと感じた。きつと後に続く人たちにも希望の光となってくれるだろう。



勲章勲記を手に。

(文) 田口知恵子
コミュニティFMを通じて、地元情報を日々伝えるナビゲーター。名張市在住。



「結局今が一番だといつも思います」後輩たちにとって至宝の言葉だ。

名張育成園の活動、ひとつずつ!

各施設の様子をお伝える「MIRAIレポートブログ」から
選り抜きの話題をご紹介します。
詳しくは、ブログをご覧くださいね!

<http://www.you-blog.jp/blog/miraireport/>

新年を迎え、それぞれに祈り、願い、
そしてお祝いをしました。
みなさんが健康で、
そして幸せでありますように。



(とも)



(ういず)



(成美)



(ゆっくる)



いつつ星★物語



この物語の舞台、
グループホーム「いつつ星」

この物語の主な登場人物…いつつ星の五人の住人

これは、グループホーム「いつつ星」の個性豊かな住人たちが、
支え合いながら、その人らしく輝いて暮らしていく物語です。

第2話



おさるのモンタくん
じっとしているのが
苦手な男子の子。



コアラのラーラちゃん
なんでもゆっくり、
とつても人懐っこい女性。



リスのリスボンちゃん
コミュニケーションが
苦手な頑張り屋さん。



サイのサイゾウくん
こだわりが強い青年。
記憶することが得意。



ひつじのめーたん
言葉の無い人、
少女のようなおばさん。

グループホーム「いつつ星」では、個性豊かなメンバーと一緒に生活しています。
今日は日曜日。リスボンちゃんが「いつつ星」に引っ越しする日です。

「いつつ星」では先に入居したメンバーが
リスボンちゃんの到着を待っていました。
いつも日常生活のフォローをしてくれる「いつつ星」の支援員さんに
「まだかな～、まだかな～」と何度も尋ねるコアラのラーラちゃん。
普段と違う雰囲気を感じて
いつもに増して元気に飛び跳ねるおさるのモンタ君。
マイペースのひつじのめーたんはいつもと同じ場所で
いつものお茶を飲んでいます。
サイのサイゾウくんはお部屋から出てきません。

そしてリスボンちゃんが支援員さんと一緒にやってきました。
みんなが見守る中、
「あ…こんにちは…えっとリスボンです。よろしくをお願いします。」
と下を向いて恥ずかしそうに自己紹介しました。

「私うー。」とラーラちゃんは笑いかけました。
モンタ君はリスボンちゃんが気になって気になってずっと近くを離れません。
その時です。
「あ、めーたん!」とリスボンちゃん。
「知ってるの?」と支援員さん。
「うん、前に同じ作業所だったから、ね。」
するとめーたんがこちらを向いてふっと笑顔になりました。
「めーたん覚えてるんだね!!」とみんなで盛り上がりました。

しばらくすると、サイゾウ君がひょいとドアから顔を出しました。
ラーラちゃんがまたそれを見つけて言いました。
「…あれ? サイゾウ君お部屋にいたの? …一緒にくれば?」

「……」
「…あ! そうそう、コーヒー一緒に飲もうよ～」
サイゾウ君は大好きなコーヒーをすすめられたので、スツとお部屋から出てきました。
サイゾウ君はラーラちゃんと一緒にコーヒーを入れて、みんなの輪に入りました。

そこでリスボンちゃんはサイゾウ君に
「リスボンです。」とまたまた恥ずかしそうにご挨拶しました。
が、サイゾウ君はコーヒーを飲み終わると、リスボンちゃんの顔も見ず
そのまま部屋に帰ってしまいました。

「……」リスボンちゃんは少し不安になりました。
そんなリスボンちゃんの様子に気づいた支援員さんが
「サイゾウ君は怒ってるわけじゃないからね。いつものサイゾウ君だから。」
と教えてくれました。

「うん。」
リスボンちゃんは、これからこのメンバーと一緒に暮らすんだと
わくわく、ドキドキ、モヤモヤ…色々な気持ちが心のいっぱいになりました。

こうやって小さなグループホーム「いつつ星」のメンバーがそろいました。
個性豊かな5人のメンバー。
これから「いつつ星」の物語の始まりです。



グループホームの生活について

名張育成会のグループホームでは、
「どんなに障害が重くても地域でふつ
うに暮らしたい」、「一人暮らしは不安
だけども人数で暮らしたい」などの希
望や個性に応じて、現在18のホームに
1～10人ずつ約90名の方が暮らして

います。日常のお世話をする支援員は
食事、入浴、排泄、家事といった支援
を始め、時には生活の相談なども行う
など、それはまるで家族のような存在
として利用者さんに寄り添い、それぞ
れの暮らしぶりを応援しています。

監修: 名張育成会広報委員会、作: 田口
知恵子(名張市在住) ※この作品は著作権法
などで保護されています。無断複写、転
載、一部流用などを禁じます。お問合せ:
shiori@n-ikuseien.jp 男武まで